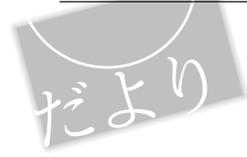


入植の労苦振り返る

海外県人会



パラグアイ

パラグアイ・ピラポ岩手県人会（工藤好雄会長）は7月31日、イタプア州ピラポ市の富美村公民館広場で創立55周年記念式典を行った。関係者らがお祝いに駆け付け、同国発展の礎を築いた県人たちの苦勞をたたえた。

岩手県から達増県知事代理の根子忠美環境生活部長、玉沢徳一郎県相撲連盟会長、滝川良一副会長、選手団3人を含む7人が出席。永見偵輝ピラポ市長、中古敦日本人会副会



式典後の祝賀会で肩を組んで「北国の春」を歌う出席者たち

長、エンカルナツション領事事務所の石原圭子参事官兼領事らが来賓として参加した。会員や家族、ブラジル

祝った。工藤会長に代わり感謝の言葉を述べた佐藤豊副会長（花巻市出身）は55年前、県の第1陣として8歳で家族4人、他家族を含め9家族でピラポに入植。佐藤副会長は「原始林の未開地で想像を絶する環境の中、転住する人もいて現在は私の家族だけ。厳しい環境の中、必死で頑張った先人たちの努力が実り、原始林は広大な緑の大地となり今日の繁栄を築いた」と振り返った。

根子部長は「県出身者が心のよりどころと結成された貴会が輝かしい発展を遂げられたことを心からお祝い申し上げます。先の大震災に対し物心両面の励ましをいただいたことにあらためてお礼を申し上げます」と達増知事のメッセージを伝えた。県相撲連盟は25年前から、県人会の要請により、ピラポ入植行事として5年ごとに選手団を派遣。玉沢会長は「相手に敬愛の誠を尽くし己に克つ」とし、関係者の労苦をたたえた。瓶を重ねながら踊るパラグアイの民舞、鬼剣舞、さんさ踊り、ピラポ音頭のアトラクションなどもあり、にぎやかに式典を終えた。

岩手日報 2015年9月9日

ピラポ県人会55周年 パラグアイ

入植の労苦振り返る